

見えない政府の内側

【訳者注】ジョン・ピルジャーは、ジャーナリストとしての良心と責任感をもつ、ジャーナリストの鏡だといってよいだろう。あくまで自分で調査して得た真実を、わかりやすく説明してくれると同時に、不正や虚偽を許さない倫理感の手本をも示してくれる。

読者は、この論文と「アメリカのファシズム小史」を併せ読まれることをお勧めする。Edward Bernays (バーネイズ) という、今日の社会にまで影響を及ぼしている「プロパガンダの元祖」を共通項として、この2つの論文は我々の蒙を開いてくれる。バーネイズは、「気づかれることなく、人々の合意を操作する」プロパガンダの力を「見えない政府」と呼んだというが、これは米政府の背後にあって、これを支配するグローバル・エリートのこととも考えられる。

「今日ほど、この見えない政府が、強力でありながら理解されていない時代はなかった。今ほどプロパガンダが我々の生活に密かに侵入し、真偽を問われなかった時代を私は知らない」という、ベテラン・ジャーナリスト、ジョン・ピルジャーの言葉は重く、我々はこれを新聞やテレビを見るたびに思い出さねばならない。求める気になれば、真実を知る手立てはいくらでもある。目を開かせまいとする勢力があることを知った以上、我々は目を開かねばならない。騙されることは、自分と世界をともに滅ぼすことにつながる。

John Pilger

October 27, 2016, Information Clearing House



アメリカのジャーナリスト、エドワード・バーネイズ (Bernays) は、しばしば現代のプロパガンダを発明した人と言われる。精神分析学の開拓者ジークムント・フロイトの甥であるバーネイズこそ、「パブリック・リレーションズ」(PR、

宣伝) という言葉を作って、スピン (偏った宣伝) とその欺瞞の美名として使った男である。

1929年に、彼はフェミニストを説得して、ニューヨークの“イースター・パレード”でタバコを吸わせることによって、女性のためにタバコを推奨したが、これは当時、考えられない振舞いだった。一人のフェミニスト Ruth Booth は、「女性たちよ、もう一つの自由の松

明を灯せ！ もう一つの性のタブーと戦え！」と宣伝した。バーネイズの影響力は広告を超えてもっと先まで届いた。彼の最大の成功は、アメリカの大衆に向かって、第一次大戦の殺戮に参加するように説得したことだった。

その秘密は、と彼は言った、「人々の合意を操作する」ことで、これによって「彼らがそれに気づくことなく、彼らを我々の意志通りにコントロールし、管理することである。」

彼はこれを、「我々の社会の真の支配力」だと言い、それを「**見えない政府 (invisible government)**」と呼んだ。

今日ほど、この見えない政府が、強力でありながら、理解されていない時代はなかった。ジャーナリストと映画製作者としての私の生涯において、プロパガンダが、今ほど、我々の生活に密かに侵入し、真偽を問われなかった時代を私は知らない。

2つの都市を想像してほしい。両方とも、それぞれの国の政府の軍隊によって包囲されている。両都市とも、人々の首を切るような、恐ろしい残虐行為を犯す、狂信者たちに占領されている。しかし一つ重要な違いがある。一方の包囲においては、政府の兵士たちは、彼らに交じっている西側の記者たちによって解放者と呼ばれ、彼らは熱心に彼らの戦闘や空爆を報道している。こうした英雄的な兵士たちが、勝利を意味する V サインをしているフロント・ページの写真が出ている。市民の死傷者についてはほとんど触れられていない。

もう一つの——近くの別の国の——都市でも、ほとんど全く同じことが起こっている。政府軍が、同じ種類の狂信者たちに支配された都市を包囲している。違うところは、狂信者たちが“我々”によって、我々アメリカやイギリスによって、支援され、補給され、武器を与えられていることである。彼らは、米英に資金援助されるメディア・センターまでもっている。もう一つの違いは、この都市を包囲している政府の兵士たちが、この都市を攻撃し爆撃しているとして非難される悪者になっていることである——最初の都市の良い兵士たちと全く同じことをやっているのに。

ややこしいだろうか？ 実はそうではない。こういうのが、プロパガンダの本質である基本的なダブル・スタンダードなのだ。もちろん私が言及しているのは、イラクの政府軍による、現在のモスル市の包囲のことで、彼らはアメリカとイギリスに支援されており、もう一つは、シリアの政府軍によるアレッポの包囲で、こちらはロシアに支援されている。一方は善で、他方は悪なのだ。

ほとんど報道されないことは、両方の都市とも、もしイギリスとアメリカが 2003 年に、イ

ラクを侵略しなかったならば、狂信者たちによって占領もされず、戦争で破壊もされなかったということである。その犯罪的行動は、現在、シリアの“内戦”についての我々の理解を歪めているプロパガンダに極めてよく似た、ウソに基づいて進められた。このニュースに見せかけたプロパガンダの太鼓がなかったら、怪物的な ISIS やアルカーイダやアルヌスラ、またその他のジハーディスト・ギャングも存在していないだろう。そしてシリアの人々が、今日、命をかけて戦うようなことはなかっただろう。

覚えている人があるかもしれない——2003年、BBCの記者が次々とカメラに向かって、トニー・ブレアは、世紀の大犯罪と判明した出来事に対して、潔白なことが証明されたと我々に告げた。アメリカのテレビ・ネットワークは、ジョージ・W・ブッシュに対しても、同じ潔白をつくり出した。フォックス・ニュースは、キッシンジャーを読んで、コリン・パウエルのねつ造について弁解させた。同じ年、この侵略の直後に、私はワシントンで、著名な調査ジャーナリストである Charles Lewis とのインタビューを、フィルムに収めた。私は彼に、「もし世界で最も自由なメディアが、粗削りなプロパガンダであるとわかったこの出来事を、真剣に問い詰めていたら、どうなったと思うか？」と訊ねた。

彼は答えて言った——もし、ジャーナリストが彼らの仕事を果たしていたら、「我々がイラクで戦争をしなかった可能性は、非常に大きい。」

これはショッキングな発言であった。そして、私が同じ質問をした他の有名なジャーナリストたちも、同じ見解を示した——CBSの Dan Rather、オブザーバー紙の David Rose、そして名を伏せることを望んだ、BBCのジャーナリストやプロデューサーも同じであった。言い換えると、もしジャーナリストが自分の職責を果たしていたら——彼らがプロパガンダを増幅するのではなく、糾明し調査していたら——何十万という男女や子供が今日も生きていて、ISISも、アレッポやモスルの包囲戦争もなかったであろう。また、2005年7月7日のロンドン地下鉄の残虐行為もなかったであろう。何百万の難民の脱出もなく、悲惨なキャンプもなかったであろう。

昨年11月パリで、残虐なテロ事件が起こったとき、フランソワ・オランド大統領は、直ちに爆撃機を送ってシリアを爆撃させた。すると、さらに多くのテロが起こった。おそらく、オランドが、フランスは“戦争中”であり“情け容赦はしない”と見えを切ったことの結果であろう。国家暴力とジハーディスト暴力が、互いに相手を養育するということは、どんな国家指導者も口にする勇気のない真実である。

「真理が沈黙に置き換えられるとき、沈黙は虚偽になる」と、ソ連の反逆者 Yevtushenko は言った。

イラクへの攻撃、リビアへの攻撃、シリアへの攻撃は、このそれぞれの国家の指導者が、西側の傀儡でなかったゆえに起こった。サダムやカダフィたちの人権問題は、関係がなかった。彼らは命令に従わず、自国の他国による支配に屈しなかったのである。

同じ運命が、ミロシェビッチ (Slobodan Milosevic) を待っていた——彼がひとたび、セルビアの占領と市場経済への転換を要求する“合意”に、サインするのを拒否したとき、それが起こった。彼の人民は爆撃され、彼はハーグの国際法廷で起訴された。この種の独立は許せないことなのだ。ウィキリークスが明らかにしたように、シリアの指導者バシヤール・アル・アサドが攻撃されたのは、2009年、彼の国を通して、カタールからヨーロッパへ引かれるパイプラインを、彼が拒否したときだった。

そのとき以来、CIAは、ジハードイストの狂信者を使って、シリアの政府を打倒する計画を立てた——彼らは、現在、モスルと東アレッポの人民を人質に取っている同じ狂信者である。どうしてこれがニュースにならないのか？ イラクに対する制裁を担当していた、前英国外務省高官 **Carne Ross** は、私にこう話してくれた——「我々はジャーナリストには、無害な情報の怪しげな事実 (factoids) を与えるようにしていました。でないと、彼らはどうても耐えられないでしょう。まあ、そんな仕組みになっています。」

西側の中世からの顧客であるサウジアラビア——米英が何億ドル相当の兵器を売りつけている——は、現在、イエメンを破壊しつつあるが、この国はあまりにも貧しく、良かったときでも子供の半数は栄養不良だった。ユーチューブを見れば、サウジが、汚れて貧しい村々の結婚式や葬式を狙って、巨大な爆弾——“我々の”爆弾——を使用している様子がわかるだろう。その爆発は小さな原爆のように見える。サウジアラビアの爆弾投下兵は、イギリスの将校と並んで任務についている。この事実は夕方のニュースには出てこない。

プロパガンダは、我々の合意が教育のある人々によって操作されるとき、最も効果がある。有力大学出身で **BBC**、**ガーディアン**、**NY タイムズ**、**ワシントン・ポスト** にキャリアのある人々がよい。これらの報道組織は、リベラルなメディアとして知られる。彼らは自ら、知識ある、進歩的な、道徳的な時代精神をもつ、人民の擁護者だと自称している。彼らは、反人種差別、プロ・フェミニスト、プロ・LGBT (性の多様性) である。

そして彼らは戦争を愛する。

彼らはフェミニズムを弁護する一方で、無数の女性の権利や生命の権利を否定する、略奪戦争は支持する。2011年、リビアは進んだ現代国家だったが、ムアンマル・カダフィは、

自国民に対してジェノサイドを計画しているという口実で、殺された。そのニュースは絶えず流された。そして全く証拠はなかった。それはウソだった。

実は、イギリスもヨーロッパもアメリカも、彼らが好んで口にする“政権交代”を、アフリカ最大の石油産地であるリビアで、起こそうとしたのだった。カダフィのアフリカ大陸での影響力と、とりわけ彼の独立心が許せなかった。それで彼は、英米仏に支援された狂信者によって、背中をナイフで刺されて殺された。ヒラリー・クリントンは、カメラに向かって、彼の残忍な死を喝采し、「我々は来た、我々は見た、彼は死んだ！」と叫んだ。

リビアの破壊はメディアの勝利だった。戦争の太鼓が打たれているとき、**Jonathan Freedhand** はガーディアンに対し、「リスクは非常に現実的だが、介入をよしとする考えはやはり正しい」と言った。介入——何という礼儀正しい、穏やかな、ガーディアン的な言葉だろう！ その本当の意味は、リビアにとって死と破壊であった。

NATO は、それ自身の記録によれば、リビアに対し、9,700 回の出撃を行い、そのうちの 3 分の 1 以上が市民を目標にしたものだった。そこにはウランの弾頭を持ったミサイルも含まれていた。ミスラータとシルテの瓦礫の写真や、赤十字に確認された集団墓地を見るがよい。殺された子供に関するユニセフの報告は、「彼らのほとんどは 10 歳以下だった」と言っている。その直接の結果として、シルテは ISIS の首都になった。

ウクライナはもう一つのメディアの勝利である。NY タイムズ、ワシントン・ポスト、ガーディアンなど、声望あるリベラルな新聞、それに BBC、NBC、CBS、CNN など主流の放送局は、彼らの視聴者を、新しい危険な冷戦を受け入れるように条件づける、決定的な役割を果たした。そのすべてが、ウクライナの出来事を、ロシアによる悪辣な行為として報じたが、実際は、2014 年のクーデタは、ドイツと NATO の協力を得た、アメリカの仕業だった。

こうした事実の転倒があまりにも浸透していて、ワシントンのロシアへの軍事的脅迫はニュースにはならない。それは、私が最初の冷戦中に体験してきたような、悪口と脅しのキャンペーンの背後に抑え込まれている。再び、露助どもがこちらへ攻めてくるぞ——エコノミスト誌が悪魔だと言っている、もう一人のスターリンに率いられて！

ウクライナについての真実の隠ぺいは、私が思い出せる、最も完全な報道管制の一つである。キエフのクーデタを操ったファシストは、1941 年にソ連へのナチスの侵略を支援した、同じ系統のファシストである。ヨーロッパのファシスト・反ユダヤ主義の台頭にかかわる、あらゆる恐怖について、いかなる指導者も、ウクライナのファシストのことは沈黙している——ウラジミール・プーチンを除いて。しかし彼は数に入らない。

西側メディアの多くは、ロシア語を話す民族的なウクライナの人々のことを、彼らの自身の国のアウトサイダーとして、モスクワのスパイであるかのように見せようと努力してきた。彼らを、ウクライナ内部の連邦制を求めるウクライナ人として、また、選挙で決まった政府を倒し、外国主導によるクーデタを押し付ける者に抵抗するウクライナ市民として、決して見ようとしなかった。

そこには、ほとんど戦争屋たちの同窓会のような、意気投合の雰囲気がある。ロシアとの戦争を煽るワシントン・ポストの太鼓叩きたちは、サダム・フセインが大量破壊兵器をもっていうウソを発売した、まさに同じ社説ライターたちである。

我々大多数にとって、アメリカの大統領選挙キャンペーンは、メディアの化け物ショーであり、ドナルド・トランプが悪者の頭になっている。しかし、トランプはアメリカの権力者たちに憎悪されているのであって、その理由は、彼の毒気のある振舞いや意見とはほとんど関係がない。ワシントンの見えない政府にとって、予想できないトランプは、アメリカの 21 世紀構想の障害物なのだ。

構想とは、アメリカの支配を維持すること、それにロシアと、できれば中国を隷属させることである。

ワシントンの軍国主義者にとって、トランプの本当の問題は、彼の本心が見えるときには、ロシアとの戦争を望んでいないらしいことである。彼はロシア大統領との、戦争でなく、話し合いを望んでいる。彼は中国の主席とも話し合いたいと言っている。ヒラリー・クリントンとの最初の討論で、トランプは、核兵器を紛争に持ち込む最初の者にならないことを約束した。「私は絶対に先制攻撃はしない。核に手を付けたら、それで終わりだ」と彼は言った。しかしそれはニュースにならなかった。

彼は本気で言っているのか？ それはわからない。彼はよく矛盾したことを言う。しかし、明らかなことは、トランプが、誰がホワイトハウスに入ろうと、アメリカを動かしている広大な国家安全保障組織に維持されている現状維持にとって、深刻な脅威と考えられていることである。CIA は彼の敗北を望んでいる。ペンタゴンも、メディアも、彼自身の党さえ、彼の敗北を求めている。彼は世界の支配者たちにとって脅威である。それに対して、クリントンは、核武装をしているロシアや中国と、戦争をする準備をしていることは明らかである。

クリントンは、自分にはやり方がある、とよく自慢している。実際、彼女の実績は証明済みだ。上院議員として、彼女はイラクの流血を支持した。オバマに対抗して立ったとき、彼女

は、イランを「完全に消す (obliterate)」と脅迫した。国務長官として彼女は、リビアとホンジュラスの政府の破壊に共謀し、中国への挑発を軌道に乗せた。彼女は今、シリアの飛行禁止区域を支持する約束をしている。これはロシアとの戦争を、直接、挑発することになる。クリントンは私の生涯で、最も危険な米大統領になりそうである——誰も、この点では太刀打ちできそうにない。

ひとかけらの証拠もなく、彼女は、ロシアがトランプを支持し、彼女の e メールをハッキングしていると非難している。ウィキリークスに暴露されたこれらの e メールは、クリントンが私的に、富豪や権力者たちに言っていることが、彼女の公的な発言とは正反対であることを示している。これが、ジュリアン・アサンジを黙らせ、脅迫することが非常に重要な理由である。アサンジは真実を知っている。そして心配している方々に保証するが、彼は健在である。そしてウィキリークスは、すべてのシリンダー上で作動している。

現在、第二次大戦以来、最大のアメリカ主導の軍事力の結集が進行中である——コーカサス地方と東ヨーロッパにおいて、ロシアとの国境線で、そして中国が目標となるアジアと太平洋において。11月8日に大統領選の見世物がフィナーレに達したときに、このことを思い出していただきたい。もし勝利者がクリントンなら、能無しのコメンテーターの大合唱が、彼女の戴冠を、女性のための偉大な前進として祝賀するであろう。誰も、クリントンの犠牲者を口にする者はいないだろう——シリアの女性たち、イラクの女性たち、リビアの女性たち。誰も、ロシアで行われている市民の防衛訓練のことは言わないだろう。誰も、エドワード・バーネイズの“自由の松明”を思い出す者はいないだろう。

ジョージ・ブッシュの報道官が、あるときメディアを“共犯を可能にする者”と呼んだことがある。

そのウソがメディアによって可能にされて、これほどの苦しみを引き起こした、ある政府の高官から出た言葉として、この言い方は、歴史からの警告である。

1946年、ニュルンベルク裁判の検察官が、ドイツのメディアについてこう言った——「あらゆる大きな侵略の前に、彼らは、狙う餌食を弱体化し、ドイツ国民に心理的に攻撃の準備をさせるように計算された、報道キャンペーンを始めた。このプロパガンダ組織の中では、最も重要な武器は、毎日の新聞とラジオだった。」